

令和4年度

田原本町教育委員会活動点検評価報告書

(令和3年度実施事業分)

令和5年2月

田原本町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、令和3年度に田原本町教育委員会が実施した教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の結果について報告します。

令和5年2月24日

田原本町教育委員会

目 次

○はじめに	1
○教育委員会の運営・活動状況	2
○点検・評価項目	
・ 幼児教育の推進	3
・ 小・中学校教育の推進	5
・ 特別支援教育の推進	7
・ 学習体制の充実	9
・ 生涯学習環境の充実	11
・ 図書館事業の充実	13
・ 文化活動の促進	15
・ スポーツに親しむ環境の整備	17
・ スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	19
・ 文化財保護事業	21
・ 唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	23
・ 唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	25

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この報告書は、同法の規定に基づき、田原本町教育委員会が行った点検・評価の結果をまとめたものです。

II 点検・評価の基本方針

1 点検・評価の目的

法改正を受け、町教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検・評価し、その結果を議会に報告するとともに、住民に公表することといたしました。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「田原本町第4次総合計画」基本目標1「子育ての願いをかなえるまちづくり」及び基本目標2「潤いや喜びを与える学びとスポーツのまちづくり」の教育関連施策を点検・評価の対象としました。

点検・評価の対象年度は、令和3年度です。

- (1) 田原本町教育委員会の運営・活動状況
- (2) 「田原本町第4次総合計画」に基づく施策体系ごとの点検・評価(12施策)

3 点検・評価の方法

「田原本町第4次総合計画」に基づく施策体系ごとに、進捗状況の参考となる指標及び実施事務事業の実績を掲載しています。

上記の指標及び実施事務事業の実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価にあたっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【点検評価委員】

(敬称略 五十音順)

役 職	氏 名	備 考
委 員	小西 敏夫	行政経験者
委 員	元塚 敏彦	教職経験者

田原本町教育委員会の運営・活動状況

1 教育委員

(令和4年 3月31日現在)

職名	氏名	職業	就任年月日	任期満了年月日
教育長	植島 幹雄	公務員	H29. 4. 1	R5. 3. 31
委員	眞田 和則	会社員	R2. 12. 23	R6. 12. 22
委員	岡本 春江	無職	R1. 9. 22	R5. 9. 21
委員	榭井 歌世	教員	R1. 12. 22	R5. 12. 21
委員	山田 育弘	会社員	R3. 12. 24	R7. 12. 23

2 教育委員会議の開催状況

- ・教育委員会定例会……10回
- ・教育委員会臨時会……1回

3 教育委員会議の審議状況

- ・報告事項……19件
- ・審議事項……26件

4 教育委員の活動状況

- ・定期学校訪問実施(年1回)……幼稚園4園・小学校5校・中学校2校
- ・幼稚園・小学校・中学校行事への参加……入園式・入学式・運動会・卒園式・卒業式及び各種研究会等
(コロナ禍により来賓参加なし)
- ・各種研修会への参加……近畿市町村教育委員研修大会(兵庫県)・奈良県市町村教育委員会連合会研修大会・人権教育各種研究大会・青少年健全育成各種研究大会等
- ・各種行事への参加……成人式等

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	幼児教育の推進			総合計画位置づけ	1-2
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課	担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	幼児の心身の健全な発育を促すため、幼稚園・保育園・家庭が連携し幼児教育の充実を図る。また、遊びを通じた総合的な学びを小学校での教科等の学びに円滑に接続するため、幼児教育と小学校教育の連携を推進する。
施策概要	基礎を培う乳幼児期における教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。保護者ニーズに対応するための預かり保育の実施等幼児教育の支援。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度
		(目標/計画) (実績)	指標名説明		単位
① 公立・私立幼稚園就園率 対象年齢者に対する公立・私立幼稚園の園児在籍率	%	60	町立幼稚園就園率	%	60
		47	対象年齢者に対する町立幼稚園の園児在籍率		—
② 保育園・小学校との連携回数 合同運動会や音楽鑑賞会等交流・連携回数	回	73	一時預かり事業(幼稚園型)利用園児数の割合	%	40
		22 (コロナ禍で減少)	町立幼稚園における預かり保育の利用率		—
③ 預かり保育利用園児の1日平均利用園児数 預かり保育利用園児の1日平均利用園児人数	人	23			
		9		—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	40,246	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園施設管理整備事業	教育総務課	4,945	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
幼稚園一時預かり運営事業	教育総務課	9,050	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		54,241			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい 公立幼稚園の就園率は、約47%と目標値を下回っているが、田原本幼稚園の認定こども園化を実施し、保育認定児の受入を行うようになった。また、一時預かり事業(幼稚園型)を長期休業期間中も行い、保護者の支援につなげることができている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 今後も、地域の子育てに対して、町立幼稚園の果たすべき役割が大きくなると予想される。保護者に対しては、子育てへの悩みを解決に導くためにも、個々に応じたきめ細かな支援が必要である。また、子どもたちに対しても、幼稚園ならではの多様な学びの場を提供するとともに、幼稚園から小学校へ切れ目のない教育連携を行うことが大切である。地域や家庭の実態に応じた総合的な子育て支援を行い、地域に開かれた幼稚園づくりを推進する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 特に、小学校教育との円滑な接続及び幼稚園施設の老朽化について、課題が残る。幼小連携については、コロナ禍のため実施することが困難であった。また、施設の老朽化については、予算等の制約もあり、直ちに解消することが難しい。 また、就労する女性の割合が高くなり、長時間保育の必要性が増している。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現状の水準を維持する)				
	(説明) 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであるという認識の下、地域や家庭と連携し、さらなる幼児教育の充実を図る。また、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を進めるとともに、安心・安全な環境で幼稚園教育を行えるよう、施設面の修繕や保全に努める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	幼稚園運営事業(一部)	40,246	55,255	3	現状のまま
	幼稚園施設管理整備事業	4,945	14,361	3	現状のまま
	幼稚園一時預かり運営事業	9,050	12,212	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	54,241	81,828		
内部評価のコメント	幼児教育の今日的課題として、幼児教育を構成する家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されており、子どもの育ちに変化を及ぼしている。このため、幼稚園が中核となって家庭や地域社会の教育力を向上させていくとともに、幼児教育と小学校教育との接続など幼稚園の教育機能の一層の充実を図ることが必要である。 田原本幼稚園の認定こども園化一時預かり事業(幼稚園型)については、長期休業中の実施を全幼稚園児を対象に北幼稚園でのみ行ったが、今後は各園での実施を行えるよう調整していく必要がある。				
外部評価委員のコメント	幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることから、よりよい教育環境の充実に向けて努めていただきたい。生まれて初めての集団生活である幼児教育において、よき教育はよき指導者より生まれまでするので、担当教諭の待遇等の向上になるよう努めていただきたい。女性の社会進出が進む中、長時間の教育・保育を可能とするよう、各園における長期休業中の一時預かり事業(幼稚園型)の実施などのさらなる充実を図っていただきたい。さらには、園児の減少や施設の老朽化なども踏まえ、幼稚園の再配置についても検討していただきたい。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	小・中学校教育の推進	総合計画位置づけ	1-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	児童・生徒に確かな学力、豊かな人間性及びたくましい心身の育成を図るとともに、教育環境の維持・向上を図り、誰もが安全で安心できる学校を実現する。
施策概要	学ぶ力と意欲を伸ばし、豊かな人間性を育む学校教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明	単位	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)			(実績)	(実績)
① 「学校は楽しい」と回答した児童の割合 各小学校実施の「学校評価アンケート」	%	98	「授業は自分にあった教え方になっている」と回答した児童生徒の割合	%	78	
		90	全国学力・学習状況調査から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計		—	—
② 「学校は楽しい」と回答した生徒の割合 各中学校実施の「学校評価アンケート」	%	86	「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒の割合	%	93	
		61	全国学力・学習状況調査から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計		—	—
③ 学力向上に資するICT環境の整備 ICT機器(タブレット)を整備した小学校	校	7	学校施設における危険箇所の改修及び修繕の割合	%	50	
		7	点検の結果、危険箇所と判断した箇所の改修及び修繕の割合		—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
小学校運営事業	教育総務課	86,224	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校施設管理整備事業	教育総務課	58,238	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
学校給食事業	教育総務課	268,017	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校教育振興事業	教育総務課	9,489	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	9,427	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校運営事業	教育総務課	48,808	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校施設管理整備事業	教育総務課	102,099	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校教育振興事業	教育総務課	12,741	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	12,481	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	教育総務課	11,664	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		619,188			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい 児童・生徒の確かな学力の育成に向け、特に基礎的・基本的な知識・技能の着実な習得を図る取組を推進している。 今後も協同的な学習とともに個別最適化した学習を充実させ、不登校の減少にもつなげていきたい。 ICT環境を活用し、コロナ禍での学習保障への取組も進めてきた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 学力向上やいじめ・不登校の抑止、学校施設の老朽化対策、食育に関わる地産地消や食物アレルギーへの対策等について、今後もさらに推進する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 子どもの学習意欲の向上や生活習慣の未確立、基本意識や体力の低下等に対応するため、学校・家庭・地域の連携が課題である。令和5年度に学校運営協議会が始まることから、地域との連携を深まることが期待できる。学校施設の老朽化・児童生徒の減少に伴う学校再配置基本構想も策定されたことから、東・北・田原本の3小学校の統合に向け具体的に取組を進める必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現状の水準を維持する)				
(説明)	これからの社会においては、主体的に考え、情報を総合化して判断・表現し、行動する力を備えた自立した社会人の育成がますます重要となることを踏まえれば、基礎的・基本的な知識・技能を徹底して身に付けさせるとともに、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」を育成し、「生きる力」を育むことができるよう教育内容や教育環境の整備に努める。 3小統合施設基本構想の策定を進める。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	小学校運営事業	86,224	105,303	3	現状のまま
	小学校施設管理整備事業	58,238	75,383	4	現状のまま
	学校給食事業	268,017	279,145	3	現状のまま
	小学校教育振興事業	9,489	11,846	3	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業(一部)	9,427	-	3	現状のまま
	中学校運営事業	48,808	53,133	3	現状のまま
	中学校施設管理整備事業	102,099	61,130	4	現状のまま
	中学校教育振興事業	12,741	14,836	3	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業(一部)	12,481	-	3	現状のまま
	事務局運営事業(一部)【ALT派遣事業】	11,664	9,404	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	619,188	610,180		
内部評価のコメント	学校施設の危険箇所を洗い出し、修繕・改修を計画的に進めており、安心・安全な環境整備は今後も積極的に進めていく必要がある。コロナ禍の影響もあり、不登校児童生徒数が増加しており、全教職員での情報の共有・関係機関との効果的な連携などを強化して、指導の徹底を図る必要がある。児童生徒1人1台のタブレットが整備され、ICT教育の更なる推進を目指したいと考えている。3小統合施設基本構想を策定する上で、地域や保護者の理解を得ていく必要がある。				
外部評価委員のコメント	学校施設の老朽化対策については、児童生徒の安全を最優先し、計画的に取り組んでいただくことを期待する。また、児童生徒を取り巻く教育環境が多様化するなか、児童生徒の健全育成について、地域や関係機関等との連携を図りながら、効果的に対応していただきたい。事業が多く大変なことは理解できるが、予算の許す限り、施設整備・人員確保・教職員の教育等に努めていただきたい。学校再配置基本計画を踏まえ、3小統合施設の基本構想策定に当たっては、十分に地域や保護者の理解を得られるよう丁寧な説明を行っていただきたい。苦勞も察しますので、頑張ってください。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	特別支援教育の推進 ⇒ サポート体制の推進(R4)	総合計画位置づけ	1-2,1-3
部名	教育委員会	主担当課名	教育総務課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)及び広汎性発達障害(PDD)等の発達障害を含めた障害のある幼児・児童・生徒の支援体制を整備し、インクルーシブ教育の推進を図る。
施策概要	幼児・児童・生徒の個々の発達に応じた適切な教育の推進。安心・安全な教育環境の整備。就学の支援。関係機関との連携。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明		単位	(目標/計画)
		(実績)				(実績)
① 通級指導教室活用者数 通級指導教室を活用している人数	人	27	特別支援教育研修の開催数	回	2	
		12	特別支援教育に関する研修の実施回数		5	
② 特別支援教育支援員の学校配置数 特別支援教育支援員の幼稚園・小学校・中学校への配置数	人	23 (幼16,小5,中2)	カウンセリングや相談を利用した児童生徒等(保護者を含む)の数	人	250	
		41 (幼32,小9,中2)	いじめ・不登校対策指導員(町費)が実施するカウンセリングを利用した児童生徒		260	
③					—	
					—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
幼稚園運営事業(一部)	教育総務課	46,831	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
小学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	16,216	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
中学校サポート体制支援事業(一部)	教育総務課	3,245	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		66,292			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい 特別支援教育支援員の各幼稚園・小中学校への配置により、一人ひとりの子どもの特性に応じた教育の充実につながっている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 近年、特別な支援を要する園児児童生徒及び通常学級で個別の指導・支援を必要とする子どもが増加しており、一人ひとりの個性や発達、ニーズに応じた支援や特別支援教育の充実がますます求められている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 支援を要する園児児童生徒は、特別な支援を要する者だけにとどまらず、日本語の指導を要する者、不登校やヤングケアラーなどの家庭との協力を要する者など多岐にわたっており、総合的・多面的に支援を行っていく必要がある。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (現状の水準を維持する) (説明) 特別な支援を要する園児児童生徒への支援は、引き続き行っていく必要がある。 これまでも特別支援教育支援員の他、スクールカウンセラーや学校支援員、日本語指教諭を配置してきたが、今後はそれらを総合的に施策評価していきたい。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性		R3年度 決算(千 円)	R4年度 予算(千 円)	優先性	R4に向けた 経営資源(事業費)の方 向性
	幼稚園運営事業(一部)	46,831	56,946	3	現状のまま
	小学校サポート体制支援事業(一部)	16,216	-	3	
	中学校サポート体制支援事業(一部)	3,245	-	3	
	小学校サポート体制支援事業	-	37,543	3	現状のまま
	中学校サポート体制支援事業	-	20,699	3	現状のまま
【新規】					
計	66,292	115,188			
内部評価のコメント	特別な支援を要する園児児童生徒の割合は増加傾向にある上、個性や発達に応じた支援が求められており、国の配置基準に基づく教職員数だけでは十分な支援が困難な状況になっている。学校現場からは、特別支援教育に対する人的措置の要望が増加している。よって、特別支援教育の推進に向けた通級指導教室、特別支援教育支援員配置の充実、支援員に対する研修等が必要である。				
外部評価委員のコメント	子どもや保護者を取り巻く状況は多様化し、学校に求められるニーズはますます複雑化しています。特別な支援を要する子どもへの対策は、子どもだけでなく保護者への支援にもつながるものであることから、特別支援教育の推進・支援員配置を含めた前向きな取り組みとともに、関係者や関係機関と十分に連携しながら進めていただきたい。また、特別な支援を要する子どもだけにとどまらず、日本語の指導を要する子ども、不登校やヤングケアラーなどの家庭との協力を要する子どもなど、多岐にわたって総合的・多面的に支援を行っていく必要があることから、今後も相談・支援体制の一層の充実に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象: R3年度実施施策)

施策名	学習体制の充実			総合計画位置づけ	3-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす成果目的	学びたい人が学びたい時に学べるよう、様々な学習の機会や情報を提供し、人と人との繋がりを広げるとともに、自己を向上させることで地域・町づくりに繋げる。
施策概要	各種教室・講演会・研修会等を開催して、様々な学習機会を提供する。また、子どもを対象とする教室を開催する。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度
		(目標/計画) (実績)	指標名説明		単位
① 公民館学習・放課後子ども教室等の年間開催数 (説明) 公民館学習・放課後子ども教室等の年間開催数	回	300	公民館教室の参加者数	人	1,710
		299	(説明) 公民館教室の参加者数		—
② 子ども文化教室の年間開催数 (説明) 子ども文化教室の年間開催数	回	59	放課後子ども教室の参加者数	人	950
		69	(説明) 放課後子ども教室の参加者数		—
③ 子ども文化教室の年間参加者数 (説明) 子ども文化教室の年間参加者数	人	1,100			
		843		—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
公民館学習事業	生涯教育課	3,972	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
青少年健全育成推進事業	生涯教育課	11,435	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
人権教育指導事業	生涯教育課	3,099	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		18,506			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標 (R3) 達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標 (R3) 達成に向け、順調に成果があがっている <input checked="" type="radio"/> C このままでは、最終目標 (R3) 達成が難しい 公民館学習講座のうち料理教室とお菓子作り教室はコロナ感染防止のため中止した。 放課後子ども教室のうちスポーツ教室は中央体育館がワクチン接種会場となったため中止した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 文化・芸術の体験、趣味や教養を深める講座等、生涯学習に関するニーズは高くなっている。 住民が自分にあった趣味や生きがいを見つけるだけでなく、共通の趣味を持つ仲間作りや人間関係を構築する場としても意義が大きい。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 技術的な習得や作品の製作だけでなく、同じ趣味をもつ者との交流を目的にしている参加者も多い。コロナ対策を講じた上で、教室を継続していきたい。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	(説明) 参加者の固定化・高齢化がみられる。これまで参加してこなかった方が魅力を感じる教室を展開していく。				
内部評価のコメント	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	公民館学習事業	3,972	4,536	3	現状のまま
	青少年健全育成推進事業	11,435	18,839	3	現状のまま
	人権教育指導事業	3,099	3,924	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	18,506	27,299		
外部評価委員のコメント	様々な教室や講座を開催しているが、継続して見直しを図る必要がある。 定員に対する参加者数等をふまえて、教室の見直しを続けていく。 また、検温・消毒などのコロナ対策を講じながら開催していく。				
外部評価委員のコメント	公民館学習は、多くの町民の方に文化活動と触れ合う場を提供しています。時代のニーズに応じた、さらには時代を先取りした魅力ある教室や講座を実施し、新規参加者が増加する工夫をしていただきたい。また、開催にあたっては、コロナ対策を適切に講じてください。青少年健全育成事業の各校区実施について、子供の数の減少により子供会の活動の実施が難しい校区もあることから、他の方法での実施について検討していただきたい。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	生涯学習環境の充実	総合計画位置づけ	3-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	安全で快適に利用できる施設環境の充実を図ることにより、住民の学習活動が活性化する。
施策概要	田原本青垣生涯学習センターは、生涯学習施設として町民の方々に活用されており、安全・快適に利用できるように、環境整備を行う。また、学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲において、地域住民に開放する。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度
		(目標/計画) (実績)	指標名説明		単位
① 年間の公民館の利用件数	回	4,000	公民館の利用件数	件	2,660
(説明) 年間の公民館の利用件数		3,700	(説明) 公民館の利用件数		—
② 小・中学校を住民に開放している年間件数	件	3,400	学校施設利用申込件数	件	2,220
(説明) 小・中学校を住民に開放している年間件数		2,808	(説明) 学校施設利用申込件数		—
③					
(説明)					

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
青垣生涯学習センター管理事業	生涯教育課	117,970	A:高い(義務)	C:目標とする成果 が得られなかった	B:見直す余地があ るが時間が必要
計		117,970			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input checked="" type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい (説明) 公民館利用件数及び学校開放件数ともに指標の目標を下回っている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) センターは町の講座や教室を開催するだけでなく、個人やサークル等が活動する拠点になっている。建築後20年近くが経過し、修繕対象箇所が増えてきている。今後も生涯学習の場として機能するよう、青垣生涯学習センターの継続した管理・運営を行う。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 設備の取り換え時期の到来、劣化による修繕も発生しているため、施設の利用に支障が生じないように適切に対応していく。 設備・備品の入れ替えや修繕については、優先順位を決めて計画的に進めていく。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 青垣生涯学習センターは、ホール、公民館、図書館、ミュージアム(文化財)の複合施設である。それぞれの施設が機能し、施設の利用、行政サービスに支障が生じないように整備していく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	青垣生涯学習センター管理事業	117,970	94,909	4	現状のまま
	【新規】	—	—		—
	計	117,970	94,909		
内部評価のコメント	青垣生涯学習センターは生涯学習の中核となる施設である。建築後、20年近くが経過し、設備等が古くなってきている。耐用年数や更新時期を事前に把握し、継続した行政サービスを提供できるよう、計画的に更新または修繕していく。				
外部評価委員のコメント	多くの方が生涯学習活動や文化活動の場としてセンターを利用しています。利用者の活動時に安定した施設利用ができるよう、計画的に修繕や機器の入替などの対応をしていただきたい。例えば、大便器に洗浄装置付がなく、設置済みの施設が通常になってきている中このままでもいいのかについて検討していただきたい。また、消毒液の設置や定期的な換気などの徹底したコロナ対策を継続的に行っていただきたい。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	図書館事業の充実	総合計画位置づけ	3-1-3
部名	教育委員会	主担当課名	図書館
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	市民が読書の楽しみを知り、趣味や生きがいを持って豊かな生活が送れるように資料を提供し、自発的な学習の支援を行うとともに、地域の情報拠点としての図書館サービスの充実を図る。
施策概要	郷土資料、視聴覚資料を含む多種多様な分野の資料を収集し、蔵書の充実を図る。学校等と連携を図り、子どもの読書活動を推進する。各種イベントや広報活動を行い、利用の促進を図る。多様なレファレンスに対応するため、資料に精通した職員の育成に努める。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明		単位	(目標/計画)
		(実績)				(実績)
① 蔵書冊数	冊	205,000	蔵書冊数	冊	215,000	
		216,037	年度末の蔵書冊数		—	—
② 児童書の貸出冊数	冊	156,400	児童書の貸出冊数	冊	140,000	
		179,680	年間の個人・団体・相互貸借された児童書の貸出冊数		—	—
③ 町内実質登録者数	人	6,100	町内実利用者数	人	4,200	
		4,369	1年間で実際に貸出された町内の利用者数		—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
図書館収集提供事業	図書館	21,022	A:高い(義務)	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
子ども読書活動推進事業	図書館	41	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館利用促進事業	図書館	378	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
図書館運営管理事業	図書館	9,318	B:普通	B:概ね目標の成果が得られた	B:見直す余地があるが時間が必要
計		30,759			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標 (R3) 達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標 (R3) 達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい 蔵書冊数と児童書の貸出冊数は目標を上回る事ができた。 ただし蔵書冊数については、資料の廃棄が追いつかずに増えている側面がある。 児童書の貸出冊数が増加した要因は、学校や園への団体貸出が大幅に増えたためと考えられる。 町内実質登録者数は、令和2年度よりは増加したものの目標の数値には達していない。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある コロナの感染状況が落ち着いてきたため、自習や読書などをする「滞在の場」として図書館を利用する人が増えている。 また、アクティブ・ラーニングが普及してきたことにより、学校からの団体貸出や出前授業へのニーズがますます高まっている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ここ数年、町民の利用が減少傾向にあるが、有効な打開策が見つかっていない。 団体貸出や出前授業などのニーズが高まっているが、それに対応できるだけの人員を確保・育成する必要がある。

4. 次年度の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	(説明) ・利用者アンケートを実施し、町民のニーズを把握する。 ・昨年は実施できなかった「子ども1日図書館員」などのイベントを復活させ、図書館の魅力を発信できるように努める。 ・少ない人員で有効に事業を実施するため、自動貸出機の利用促進やカウンター業務の効率化を図る。 ・出前授業などを行うことで、図書館に来館できない子どもたちにも本と図書館の魅力を伝えていく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	図書館収集提供事業	21,022	23,594	5	現状のまま
	子ども読書活動推進事業	41	52	4	現状のまま
	図書館利用促進事業	378	0	3	拡大
	図書館運営管理事業	9,318	9,954	4	現状のまま
【新規】		—	—		—
		—	—		—
	計	30,759	33,600		
内部評価のコメント	引き続き、学校への配達や図書館イベントの開催などできる限りで、読書啓発を行っていく。 アンケートなどで住民の要望などを取り入れつつ、引き続き、図書館の魅力、読書の楽しさをPRしていく。 また、今までの図書館のサービスでは、なかなか利用が増えないため、今までとは違った新たな方法も模索する必要がある。				
外部評価委員のコメント	全国的に図書館利用件数の減少している状況下において、蔵書数や貸出冊数も増加していることは、数字的には一定のレベルのサービスを提供していると思われる。古い蔵書が多くなり読みにくい状態にある蔵書も目立っているように思われる。廃棄などを行い蔵書の入れ替えを行っていただきたい。 従来の貸出業務中心のサービスから情報発信の場、憩いの場としてのサービスを充実させ、町民のニーズに応えていただきたい。図書館を利用したいが来館できない高齢者等に対する対策を検討していただきたい。				

施策評価シート(対象: R3年度実施施策)

施策名	文化活動の促進	総合計画位置づけ	3-1
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす成果目的	弥生の里ホールの利用促進を図り、住民が多様な文化・芸術に触れられる機会を提供する。
施策概要	弥生の里ホールでは、質の高いイベントを開催する。また、文化団体や社会教育関係団体の文化に関わる活動を支援し、日頃の文化活動の発表の場として文化祭を開催する。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画) (実績)	指標名説明		単位	(目標/計画) (実績)
① 弥生の里ホール年間利用件数 (説明) 弥生の里ホール年間利用件数	件	500	弥生の里ホールの利用件数 (説明) 弥生の里ホールの利用件数	件	300	340
② (説明)		357			—	—
③ (説明)					—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
文化活動推進事業	生涯教育課	4,356	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
弥生の里ホール運営事業	生涯教育課	3,018	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		7,374			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標 (R3) 達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標 (R3) 達成に向け、順調に成果があがっている <input checked="" type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい (説明) ホールの利用件数が目標の指標を下回っている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある より質の高い芸術や芸能等のホール事業を開催し、幅広い世代の方に楽しんでいただけるイベントを提供する。文化祭は、学習の成果を発表し、他の人の作品や活動にふれる場でもあり、仲間との人間関係を育む場でもある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ホール事業については開催経費を抑制するため、NHKや自治振興センター(宝くじ事業)などの事業を優先的に検討する。 ホール事業、文化祭等の各種イベントについては、ウェブの活用も含め幅広い周知に努めていきたい。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 予算の範囲内で、より充実したホール事業を展開する。 ホール事業は多人数を集めることになるため、コロナの基本的感染対策を行いつつ開催していく。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度 決算(千円)	R4年度 予算(千円)	優先性	R4に向けた 経営資源(事業費)の方向性
	文化活動推進事業	4,356	4,866	3	現状のまま
	弥生の里ホール運営事業	3,018	4,091	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	7,374	8,957		
内部評価のコメント	ホール事業については、内容だけでなく、開催時期についても偏りがないようにする。 文化祭の展示作品をホームページの掲載にするなど、イベントの周知に努める。 イベントや事業は多くの人が集まるため、コロナ対策を講じながら開催していく。				
外部評価委員のコメント	ホール事業や文化祭をより多くの方に楽しんでいただけるよう、さらには費用対効果の視点からも事業内容や周知方法を見直し、検討していただきたい。例えば、教育的な子供向け映画・演劇等の計画や、文化祭事業も例年通りでマンネリ化しているように思われるので内容変更も検討していただきたい。 また、事業の実施にあたってはコロナ対策を徹底していただきたい。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	スポーツに親しむ環境の整備			総合計画位置づけ	2-1-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課	担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす 成果目的	体育施設の維持管理に努め、住民が身近な地域で安全にスポーツが行えるようにする。
施策概要	住民のスポーツ活動の拠点として、各体育館・健民運動場及びテニスコート等の環境の整備を行う。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画) (実績)	指標名説明		単位	(目標/計画) (実績)
① 中央体育館、やすらぎ体育館の年間利用件数 (説明) 中央体育館、やすらぎ体育館の年間利用件数	件	2,700	体育館の利用件数	件	1,000	2,650
		1,126	(説明) 体育館の利用件数		—	—
② テニスコートの年間利用件数 (説明) テニスコートの年間利用件数	件	1,700	テニスコートの利用件数	件	1,800	1,880
		1,989	(説明) テニスコートの利用件数		—	—
③ 健民運動場の年間利用件数 (説明) 健民運動場の年間利用件数	件	370	健民運動場利用件数	件	300	340
		181	(説明) 健民運動場の利用件数		—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
体育施設管理事業	生涯教育課	20,486	A:高い(義務)	C:目標とする成果 が得られなかった	A:見直す余地があ り直ぐに実施
計		20,486			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input checked="" type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい (説明) 中央体育館がワクチン接種会場となったため、各体育施設の利用件数が目標を下回った。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 施設が老朽化しているため、計画的に点検や改修を行い、安全で快適にスポーツを楽しむことのできる環境を整える。 消毒液の設置等、新型コロナウイルス感染対策を講じながら管理運営を進めていく。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 健康管理や体を動かすことについて、これまで以上に住民の意識が高くなっている。 多くの方に安全に施設を利用していただけるよう、必要な修繕を進める。

4. 次年度の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 体育施設を適切に管理・運営し、利用者が安全・快適に施設を利用できるよう努める。 消毒液の設置など、新型コロナウイルス感染対策を講じながら、管理運営を行う。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	体育施設管理事業	20,486	23,022	4	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	20,486	23,022		
内部評価のコメント	新型コロナの影響もあり、利用件数は減少しているが、体育施設は、多くの個人・団体が利用する場所である。適切に施設の維持管理ができるよう、改修する箇所の優先順位を検討し、計画的に改修を行う。				
外部評価委員のコメント	コロナ禍において、体育館内がコロナワクチン接種会場に活用されたため、室内活用ができなかったと思われる。利用者が安心してスポーツやイベント等を楽しめるよう、施設を計画的に修繕していただきたい。特に、体育館入口の照明が暗く、なにか施設の古さを感じる。 コロナ対策を徹底した体育施設の管理・運営に努めていただきたい。				

施策評価シート(対象: R3年度実施施策)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発	総合計画位置づけ	3-2
部名	教育委員会	主担当課名	生涯教育課
		担当課名	生涯教育課

1. 施策概要

めざす成果目的	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民が、多種多様なスポーツに親しめるよう、関係機関と連携し、気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにする。
施策概要	卓球やバドミントン等のスポーツ教室の開催や総合競技大会、ジョギング大会を開催する。また、親子バレーボール大会や歩こう会を開催し、体育協会、スポーツ少年団への助成を行う。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明		単位	(目標/計画)
		(実績)				(実績)
① テニス・ジュニアサッカー等の年間教室開催数 (説明) テニス・ジュニアサッカー等の年間教室開催数	回	250	スポーツ教室の参加者数	人	50	
		0	(説明) スポーツ教室の参加者数		—	—
② 健康スポーツの集いの年間開催回数 (説明) 健康スポーツの集いの年間開催回数	回	2				
		0		—	—	
③ 健康スポーツの集いの参加者数 (説明) 健康スポーツの集いの参加者数	人	80				
		0		—	—	

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
社会体育振興事業	生涯教育課	10,546	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
スポーツ教室開催事業	生涯教育課	5,815	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
春・秋総合競技大会開催事業	生涯教育課	4	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	A:見直す余地があり直ぐに実施
マラソン・駅伝大会開催事業(R4からジョギング大会に変更)	生涯教育課	158	B:普通	C:目標とする成果が得られなかった	A:見直す余地があり直ぐに実施
計		16,523			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input checked="" type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい (説明) 中央体育館がワクチン接種会場となったため、スポーツ教室及び健康スポーツの集いは開催を中止した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある (説明) 住民の健康志向は高く、スポーツに参加することは、体力づくり・健康づくりに効果が期待できる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 講師の方、参加者の消毒・検温などの対策を講じながら事業を開催する。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) スポーツの技術的な向上や健康増進だけでなく、コミュニケーションの場としての機能も果たしている。新型コロナ感染対策を講じながら、事業を継続していきたい。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	社会体育振興事業	10,546	4,103	3	現状のまま
	スポーツ教室開催事業	5,815	6,540	3	現状のまま
	春・秋総合競技大会開催事業	4	1,244	3	現状のまま
	マラソン・駅伝大会開催事業 (R4からジョギング大会)	158	451	3	現状のまま
	【新規】	—	—		—
	—	—		—	
	計	16,523	12,338		
内部評価のコメント	新型コロナの影響などのため、中止となった事業が増えている。実施にあたっては、コロナ感染対策を講じながら開催している。				
外部評価委員のコメント	スポーツの楽しさは明るく豊かな生活に欠かせないものであるという認識や運動は体力の維持・増進に欠かせないものであるという認識が定着してきている。これらの認識にしっかり応える教室やイベントを実施していただきたい。スポーツを「する」「みる」という参加だけでなく、「ささえる」(ボランティアなど)のように多様な参加方法により、一人でも多くの方が参加できるスポーツイベントの実施に努めていただきたい。また、コロナ禍により各種イベント等の中止はやむを得ないと思われる。実施にあたっては安心して参加できるよう、状況に応じた対策を行っていただきたい。				

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	文化財保護事業			総合計画位置づけ	3-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課	担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	文化財保護の精神と認識を深め、国・県・町指定の有形文化財及び史跡を後世まで貴重な財産として残す。
施策概要	唐古・鍵遺跡と黒田大塚古墳内の公有地の管理及び史跡の現状変更等、進達業務。その他国・県・町指定文化財所有者に防犯、防災の指導。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明	単位	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)			(実績)	(実績)
① 町文化財指定件数(累計)	件	10	町文化財指定件数(累計)	件	11	15
		9	田原本町指定文化財の指定件数の累計		—	—
②			町ホームページ「指定文化財」の閲覧件数	件	4,750	4,750
			田原本町ホームページに掲載されている各種指定文化財のページ閲覧数		—	—
③					—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
文化財保護事業	文化財保存課	9,244	A:高い(義務)	C:目標とする成果が得られなかった	C:見直す余地がない
計		9,244			

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい</p> <p>各所有者に対しては、連絡を密にして防災・防犯状況の確認などをおこなった。また、傷んだ指定文化財の修復事業について、町からの補助金交付だけでなく、自治会の民間財団助成の手続きを補助しながら実施することができた。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある</p> <p>後世に本町の財産を継承していくため、所有者には文化財の維持管理に注意を払ってもらい、常に防災・防犯意識をもっていただく必要がある。また、各指定文化財の状況を適宜把握し、適切な保存処置を講じていく必要がある。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>文化財は地域の財産であり、その地域の方の認知を広げていくことにとめるだけでなく、保存・継承に向けて意識を高めていくよう周知していかなければならない。</p>

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()</p> <p>(説明) 文化財の適切な管理を行うため、引き続き所有者と連絡を密におこない、管理上の問題点を把握していく。事業によっては補助金を交付する。 町指定文化財について、次年度中に指定案件を選定し、1件指定する。</p>																																																													
<p>施策を構成する主要な事務事業の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事務事業名</th> <th>R3年度決算(千円)</th> <th>R4年度予算(千円)</th> <th>優先性</th> <th>R4に向けた経営資源(事業費)の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化財保護事業</td> <td>9,244</td> <td>10,317</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>【新規】</td> <td>—</td> <td>—</td> <td> </td> <td>—</td> </tr> <tr> <td> </td> <td>—</td> <td>—</td> <td> </td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,244</td> <td>10,317</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性	文化財保護事業	9,244	10,317	4	現状のまま																																				【新規】	—	—		—		—	—		—	計	9,244	10,317			
事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性																																																										
文化財保護事業	9,244	10,317	4	現状のまま																																																										
【新規】	—	—		—																																																										
	—	—		—																																																										
計	9,244	10,317																																																												
<p>内部評価のコメント</p>	<p>町内の貴重な文化財を後世に伝えるため、調査と指定を進めていく。引き続き防災・防犯の普及活動を推進する。</p>																																																													
<p>外部評価委員のコメント</p>	<p>遺跡や寺社等、文化財は多岐にわたる。町の財産をより良い状態で将来に残せるよう、文化財指定ができる物件の調査を早急に進めていただきたい。文化財所有者に対する防犯・防災等の指導と支援をしていただきたい。また、町の指定文化財等の一覧表または冊子により、児童生徒への教育や町民に郷土の歴史をわかってもらう対策を検討していただきたい。</p>																																																													

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	総合計画位置づけ	3-3-1
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	弥生の追体験ができる公園として、またより多くの来園者に親しまれる憩いの場、コミュニティの場として賑わいのある活用事業を推進する。
施策概要	賑わい創出の場としてイベントを開催する。また、小・中学校の学習の場として活用する。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明	単位	(目標/計画)	(目標/計画)
		(実績)			(実績)	(実績)
① 唐古・鍵遺跡史跡公園年間来園者数	人	45,000	イベントの開催件数	件	15	55
		98,621	唐古・鍵遺跡史跡公園で実施した指定管理者自主事業イベント件数及び田原本町主催、共催イベント件数		—	—
②	人		唐古・鍵遺跡史跡公園来園者数	人	90,000	90,000
			遺構展示情報館来館者数+毎日10時、15時来園者数		—	—
③					—	—

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	文化財保存課	46,046	A:高い(義務)	A:目標よりも大きな成果が得られた	C:見直す余地がない
計		46,046			

施策評価シート(対象:R3年度実施施策)

施策名	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	総合計画位置づけ	3-3-2
部名	教育委員会	主担当課名	文化財保存課
		担当課名	—

1. 施策概要

めざす成果目的	ミュージアムの来館者が快適に観覧でき、満足していただけるようにする。また、文化財に対する理解・愛着を深め、学習意欲・愛護精神を育成する。
施策概要	ミュージアムの適切な管理や受付業務を行う。イベントや企画展、講座等を開催し、情報発信を行う。

2. 実施結果

指標名説明	単位	前期基本計画目標 R3年度	第4次総合計画 (後期基本計画)	R4年度	後期基本計画目標 R8年度	
		(目標/計画)	指標名説明		単位	(目標/計画)
		(実績)				(実績)
① 唐古・鍵考古学ミュージアム年間来館者数	人	12,000	イベントの開催件数	件	8	
		5,803	講演会、ワークショップ等の開催件数		—	
② 唐古・鍵遺跡に対する理解が深まったと答えた小学生の割合	%	75	唐古・鍵考古学ミュージアムの来館者数	人	6,000	
		58	常設展の入館者数+企画展入館者数		—	
③ 唐古・鍵考古学ミュージアムのウェブサイト年間アクセス数	件	17,000				
		19,123				

施策を構成する主な事務事業の評価結果(評価対象年度R3年度)

事務事業名	担当課名	R3年度事業費 (決算額)(千円)	必要性の点検	目標達成状況 の点検	実施内容方法の 点検
唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	文化財保存課	1,786	A:高い(義務)	C:目標とする成果が得られなかった	B:見直す余地があるが時間が必要
計		1,786			

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input checked="" type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい
	ホームページ閲覧数は目標値をこえることができた。また、来館者数は、常設展来館者数と企画展来館者数の合計値としている。令和3年度来館者数は、前年度と比べて微増したものの、目標値には届かなかった。しかし、校外学習等での利用も増加しており、今後このような利用も促進したい。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある
	史跡公園と一体として運用することで、「弥生時代の本物」にふれることができる。今後、町内小学校の総合学習だけでなく、他市町村や他県の来訪者にとって奈良盆地の弥生時代を体感する場としていく。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ミュージアムと離れた位置にある史跡公園・道の駅の指定管理者と連携した事業展開と広報が課題である。各施設がもつ性格の違いを明確に住民へ伝えられるかも課題として挙げられる。令和5年度から第2期指定管理へと移行し、史跡公園と道の駅を一体として運営することになるため、ミュージアムとのより良い連携を模索したい。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化して推進 <input type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 ()				
	(説明) より多くの人々に来館していただけるようなイベント・企画展を開催する。また、今後の需要が見込まれるインバウンドも視野に入れた事業展開を行う。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度 決算(千円)	R4年度 予算(千円)	優先性	R4に向けた 経営資源(事業費)の方向性
	唐古・鍵考古学ミュージアム運営事業	1,786	17,640	4	現状のまま
【新規】	—	—	—	—	
計	1,786	17,640	—	—	
内部評価のコメント	展示品の多くが国重要文化財に指定されていることもあり、展示品を適切に維持管理する。また、イベントやワークショップ等による教育活動や校外学習等の積極的な受け入れ等により新規の来館者増につなげるとともに、定期的な講座の開催によりリピーターを獲得していく。引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら事業を展開することになるが、Webを活用した情報発信などの手段を講じていきたい。				
外部評価委員のコメント	ミュージアムのHP閲覧数が多いことから、興味・関心は高いといえる。来場者が増えるよう引き続き史跡公園との連携やPRなど、事業を進めてもらいたい。特に、史跡公園の来園者や道の駅へのバス旅行者をミュージアムへ誘導するためのルートづくり等を検討していただきたい。				

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A 最終目標(R3)達成に向け、計画を大きく上回る成果があがっている <input type="radio"/> B 最終目標(R3)達成に向け、順調に成果があがっている <input type="radio"/> C このままでは、最終目標(R3)達成が難しい 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、各種イベントを開催することができたため、目標数値を上回ることができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は、増加する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は、現状と変わらない <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は、減少する方向にある 歴史教育の場としての活用だけでなく、様々なイベントの会場としての活用が進んでおり、今後もニーズが多様化していくと想定される。また、他府県からの修学旅行や他市町村の校外学習による来園者も増加傾向にあり、奈良盆地の弥生時代について知っていただくためにどのようなことができるのかを常に検討していく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	指定管理者と協力して来園者が安全に公園を訪れることができるよう配慮する。また、令和5年度から第2期指定管理として、史跡公園と道の駅を一体に管理していくことになるため、効率よく連携して事業を進めていく必要があり、行政側からの適切な指導も必要と考えられる。

4. 次年度の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化して推進 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を見直して推進 <input type="checkbox"/> その他 () (説明) 来園者満足度を高めるため、指定管理者とともにボランティアの支援や育成に努める。また、指定管理者に対しより多くの人々に来園していただけるよう助言を行う。				
施策を構成する主要な事務事業の方向性	事務事業名	R3年度決算(千円)	R4年度予算(千円)	優先性	R4に向けた経営資源(事業費)の方向性
	唐古・鍵遺跡史跡公園運営事業	46,046	49,632	4	現状のまま
	【新規】	—	—		—
		—	—		—
	計	46,046	49,632		
内部評価のコメント	公園開園4年目も目標を上回る実績が上げられた。一過性とならないよう、引き続き指定管理者との協力体制により賑わいのある施設となるよう事業を進めていく必要がある。				
外部評価委員のコメント	史跡公園であるが、来園者には一般の公園としての認識しかないように思われる。指定管理者制度を採用されているが、行政としての指導を強化すべきであり、イベント開催には近隣自治会への十分な配慮とイベント終了後の後始末を行っていただきたい。新規来園者やリピーターが増加するよう、魅力的な公園づくりを推進してもらいたい。				